事業所名	グループホーム あなたのふるさと萌
	（クリックすると事業者の情報にリンクします）
日　付	平成20年12月21日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド
	（クリックすると評価機関の情報にリンクします）

評価調査員

A:現職	高等学校非常勤講師、訪問指導員
資格・経験	看護師、社会福祉士、福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康生きがいづくりｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
B:現職	支援相談員
資格・経験	ヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る（事業者の自主評価結果にリンクします）

評価項目の内容を見る（評価項目にリンクします）

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）
（事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします）

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など（記述）

・倉敷市街地に近い場所にあり、周辺は、畑や山など自然の風景の中に民家が点在する静かな環境である。

・事業母体が工務店であり、建物はバリアフリーを採り入れた高齢者にやさしい造りで、近代的な面が至る所に見受けられる。一方では、入居者が生活してきた時代を懐古できるように、昔懐かしい生活用品を要所に配置し、装飾にも和の文化を採り入れるなどの配慮が見られ、入居者・家族からは施設面でも満足が得られる。

・年間を通して、入居者がグループホームでの変化のある生活を楽しめるよう、様々な行事を企画している。グループホームが開催する夏祭りには、家族や近隣住民、ボランティア等、５００人ほどが参加して盛大に行われている。当ホームは、地元住民である代表者が、平成１９年５月に開所しており、すぐ近くには先に開所したグループホームもあり、両ホームとも積極的に地域に溶け込む活動を行っている。

・広い敷地があり、入居者が花壇や畑で活動したり、散歩や日向ぼっこを楽しんだりできる環境を整えている。東屋には、車いす対応のトイレを設置し、外での活動もしやすいよう配慮している。

特に改善の余地があると思われる点（記述）

要改善の項目は無かったが、
提案として、以下の点をさらに検討されれば、さらにサービスの質の向上につながるのではないかと考える。

・ ヒヤリハットや事故報告書が整備されており、一定期間ごとにデータ分析をすれば、それぞれのユニットの傾向が見え、より具体的な対策を立てやすいのではと思う。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目：グループホームとしてめざしているものは何か（記述）

・集団で生活はしているが、入居者一人ひとりが生活しやすい環境を提供できるよう、入居者一人ひとりを理解し、それぞれの思いを実現させられるよう、個別の支援を心がけている。

・入居者にとって、精神的な面での家族の協力が大切であると考え、入居後も、家族にも役割を持ってもらうように働きかけ、入居者と家族との関係の再構築に配慮して支援している。

・日々、刻々と変化する高齢者の暮らしを常に念頭に置き、その日、その時を大切に、今ある暮らしを輝かせ、最後に花を咲かせる場所としてグループホームを提供したいと考えている。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目：入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か（記述）

・新しい入居者には、できるだけ早くホームに馴染んでもらえるよう、仲間づくりに対する支援を行っている。また、職員が入居者と共に過ごす時間を大切にし、職員数にも余裕を持たせ、寄り添いのケアを心がけている。

・問題行動のある場合は原因を考え、必要があれば家族の協力を得られるように支援している。家族の面会が増え、落ち着いてきた入居者もいる。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目：一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か（記述）

・入居者の生活歴を把握し、これまでの経験や得意なことが生活の中で発揮できるように支援している。抹茶を立てて入居者をもてなす人、自分で縫った浴衣を職員に着させてくれたり、縫い方を教えてくれる人、野菜づくりをする人等々、「たより」の中でも入居者の活動の様子が紹介されている。

・「たより」には、入居者の生活ぶりが分かる写真が多数紹介されており、掲載にあたっては入居者や家族から同意を得るなど、プライバシーの保護に配慮している。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目：サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か（記述）

・事故が発生したり、ヒヤリハットがあった時には、職員間で対策を話し合い、事故や再発の防止に取り組んでおり、報告書も作成している。

・外部での研修会に参加したり、３ヶ月に１度程度内部研修も行っており、知識技術の習得やサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。

・近隣の介護福祉施設やグループホームと交流を持ち、勉強会に参加させてもらったり、運営推進会議に参加し合い、事業所外の人材の意見や経験もケアに活かしている。